

学校にコミュニティセンターを開設し地域の健康を支える

大島高校 3年 林達真・関佳世・稲元音遊・有吉麻歩

1. 探究テーマ

地域住民の健康を支え、へき地離島における医療状況を改善すること。

<現状課題>

- ・へき地で働く**医師が不足**している。
- ・医療体制の**偏在**が著しい。
- ・**生活習慣病**を慢性的に患っている地域住民が多い。

医療課題は地域社会の存続に関わる。

私たち高校生にできる健康促進活動を考えよう！

高校生にできる健康促進活動 インタビュー調査！！

☆林 智子さん 宇検村役場保健福祉課 保健師

Q.地域の健康を支えるために高校生の私たちができることは？

- 地域行事への参加
- ボランティア活動
- お年寄りの話し相手
- 子どもたちの見守り

↓

高校生=活力の源

☆世代を超えた交流が生活に豊かさや刺激をもたらし、健康につながる。

キーワードは・・・**世代間交流**

高齢者と子どもの世代間交流プログラムによる効果

- ①相互理解
- ②世代継承性の増加
- ③心理的well-beingの向上
- ④身体的well-beingの向上
- ⑤社会的well-beingの向上
- ⑥人間関係の広がり
- ⑦地域共生意識の向上

子ども ↔ 高齢者 ↔ 現役世代

引用：日本地域看護学会誌 Vol.15 No.1 2012
(地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムに関する効果的な介入の効果)

すべての世代の人々が **心理的・身体的・社会的に健康**を向上できる。同時に人間関係の広がりによる**地域活性化**。

☆高校生が主体的に参加できるようにするために・・・

部活動の一環として 生徒中心の運営体制を作る！！

- スポーツイベント
- おはなし会
- おかし作り
- 読み聞かせ

☆自治体や保健センターと連携し、健康情報を提供する。

3. アイデア

学校に地域の人々が利用できる **コミュニティセンター**を開設

- 生徒・地域住民が気軽に交流に参加
- 学校で生徒が主体となってイベントなどを開催

2. 先行事例

先行事例① 東京都世田谷区 世田谷区立芦花小学校 世田谷区立芦花中学校・八幡山保育園

- 放課後の子どもの居場所が確保されている。
- 保育園への中学生による職場体験・小学生による読み聞かせ→世代間交流が生まれている。

先行事例② 東海大学付属市原望洋高等学校ボランティア部

- 学校近隣の保育園または高齢者福祉施設を訪問。
- 高校生対象社会奉仕クラブ活動への参加。
- 高校生のうちに福祉施設の訪問などの貴重な経験。世代間交流を通してコミュニケーション能力や自主性が育つ。

4. アイデアを広める方法

- ☆学校のホームページを活用した周知活動。
→活動日程・内容などを定期的に配信する。
例) 大島高校HPの場合、月の閲覧回数は約9000回。
- ☆自治体・保健センターの協力を得る。
→自治体のHP・ポスターなどによる周知活動。
→専門家の指導のもとで適切な環境を整える。
例) 事前登録を必要とする、保険に加入してもらう等
- ☆生徒への周知と調査。
→新たなイベントの考案などに役立て、持続的な運営を行う。
例) アイデアの募集、他の部活動との連携など。

生徒・地域住民にとっての最初の一步のハードルを下げるのが大切。

5. アイデアの実態

☆大生70人にアンケート調査を実施

Q.世代間交流活動に参加したいと思いますか？

いいえ 30%

はい 70%

Q.もし学校にコミュニティセンターを作ったら？

プラス面

- ・地域の人々とかかわる機会が増えて良い。
- ・新たに地域の憩いの場を作るのは良いと思う。
- ・たくさんの人と話すことによって学べるものや得られるものがあると思う。
- ・大人との繋がりが生まれ、校外活動を積極的に行いたい高校生にとってプラスになる。

6. アイデアが広がるとどう変わるのか

世代間交流 → 一次予防 → 健康維持

- イベントの開催により、健康をアシストできる。
例) ・スポーツイベント→身体的健康
・ヘルシーなおやつ作り→身体的・社会的健康
・おはなし会→心理的健康
- 地域住民に健康情報を提供できる。
例) 自治体・保健センターとの連携
→その場で地域住民の健康をチェックすることも可能。
→特定健診や献血の案内など健康情報に触れる機会を提供。
- 部活動運営によるメリット
例) ・健康や地域創生に興味を持つ生徒が増える。
・学校とその周辺地域の活性化。

すぐに学校にコミュニティセンターを開設するのは難しい...

できること

私たちの探究グループが中心となって

- ①生徒へ地域行事・ボランティア活動への参加の呼びかけ。
- ②ボランティアを運営しているNPOに協力を依頼し、企画・運営のノウハウを学ぶ。
- ③NPO・自治体と協力して地域の高齢者と高校生の交流会を企画する。
例) 地域の課題に関するディベートディスカッションなど

→来年度の1・2年生の探究グループへ引継ぎ、協力して継続的な発展を目指す。

マイナス面

- ・学校内に知らない人が入ってくるのは怖い。
- ・放課後に学校で勉強したい人の邪魔になる。
- ・ほとんどの高校生は参加しないと思う。
- ・大高生が過ごしにくくなりそう。

→**安全性・快適性・持続性に考慮が必要。**

☆コミュニティセンター・・・世代間交流

地域活性化 ↔ 人間関係の広がり

↓

安心・安全で暮らしやすい街に

精神的 ↔ 社会的 ↔ 身体的